

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 3 月 10 日

事業所名 児童デイサービスまはろ宮野湾大謝名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	3			今後は、高学年の対応や思春期サポートなどの個別対応等も視野にいれていながら対応していきたいと考えている。
	2 職員の配置数は適切である	6	2			児童数に対応して人員配置は出来ているが今後、専門職員数を増やし専門的支援も出来るよう体制も整えていけるよう努めていく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	6			完全バリアフリー化は難しいと感じるが対応できる範囲内で引き続きバリアフリー化を目指していく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	2			定期的にミーティングを行い、各スタッフの目標設定に対して業務改善を行っている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	2			保護者様向けの評価表も実施している。保護者様のご意見を受け止め今後の業務改善に活かしていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	2			年に一度ホームページにて公開している。引き続き公開していく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	5			必要に応じて外部評価を検討していく。結果に応じて業務改善していく。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	2			全スタッフの研修を増やし、受講スタッフは未受講スタッフへの情報共有や勉強会を開催し療育の質の向上していく。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8				個別支援計画書に基づいて評価や計画の見直し等、保護者様の同意を頂き計画作成を引き続き行っていく。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	1			引き続き現状維持で対応していく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1			課題計画書に基づいてスタッフ全体で取り組んでいる。今後も質の高いプログラムを目指し連携を図っていく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8				固定化しないようにプログラムの見直し、改善策をスタッフ間で話し合い、満足度の高いプログラムを常に意識して取り組んでいく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	1		児童が満足して貰えるような課題を考え課題計画書を作成している。	感染対策を行い、子どもたちが楽しみながら経験値を増やしていけるような活動を引き続き考案していく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8				専門職を活かし個別プログラムを組んでいく。状況に合わせて部屋を移動し完全個別対応の環境も整えていけるよう努めていく。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8			個別対応や状況に柔軟に対応できるよう役割分担を行っている。	サービス提供時間前にミーティングを行い万全の受け入れ体制を整え支援内容の共有や役割分担も同時に行っていく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1		チャットワークを使用し情報共有を行っている。	引き続き振り返りを行い情報共有の質を更上げていく。また当日の療育内容も各自が振り返りを行い次回の活動に活かしていく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	1			日々の支援記録を引き続き行い、担当者会議等で管理者は支援検証や改善に繋げていけるように努めていく。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8			児童発達支援管理責任者が見直しの必要性を判断。	モニタリング会議は児童発達支援管理責任者が参加しているが、今後は児童発達支援管理責任者以外のスタッフも参加することでサービス計画の見直し判断を行い、ご利用者様が満足できるサービスを提供していく。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6	2			放課後等デイサービスガイドラインを基に支援や事業所運営を引き続き行っていく。	

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	8				児童発達支援管理責任者と参加対象児童との関りが多いスタッフも 出来る限り一緒に参加できるように努めています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡 調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連 絡)を適切に行っている	7	1			学校側との情報共有に関して今後とも関係性を更に密に行っ てくと同時に学校側のイレギュラー対応も柔軟に対応出来る よう努めていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている	2	6			現在、該当児童は居ませんが今後利用があった際は関係機 関との連携を図り体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	5	3			関係機関との支援内容の共有を今後とも引き続き行っていき 療育支援に活かして行けるように努めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行す る場合、それまでの支援内容等の情報を提 供する等している	5	3			個人情報使用同意書の範囲内で情報提供を行っていく。 卒業後も移行先との連携し協力していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セ ンター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	5	3			今後は専門機関と連携を図り助言や研修を受け療育支援に 活かしていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	2	4	2		地域の児童館の行事や手伝いを通してコミュニケーションを 図り地域密着型の放課後等デイサービスを目指していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	2	5	1		今後は地域自立支援会議に積極的に参加をしていきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	8				引き続き現状維持で対応していく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている	4	3	1		事業所でのお子様の支援を通して、成功例の共有をしてい き、ご家庭でも出来るような支援を提供出来るように努めてい く。
保護者への説明 責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	8				引き続き現状維持で対応していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談 に適切に応じ、必要な助言と支援を行って いる	8				引き続き現状維持で対応していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している	1	6	1		次年度は感染対策を徹底し保護者会や親子参加型のレクな どの開催を検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	7	1			今後も苦情解決責任者、苦情受付責任者と連携し対応してい く。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	6	2			日々のブログや連絡帳を通して保護者様へ発信を行ってい る。行事予定も毎月保護者様へ配布を行っている。
	35	個人情報に十分注意している	8				個人情報に関しては鍵付きの書庫にて保管。 今後も適切に取り扱っていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	8				引き続き現状維持で対応していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地 域に関わられた事業運営を図っている	4	4			地域住民を招待できるようなイベントを今後は開催してい き地域に愛される事業所を目指していく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時 等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	3			次年度は各マニュアルを策定し、スタッフや保護者様へ周知していけるよう努めていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8				法令で定められた回数の訓練を行っている。 必要に応じて回数も増やしていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	1		虐待防止についてスタッフで話し合いを行っている。	研修回数を増やし事業所全体で虐待防止への意識を高め ていく。また個別での研修も視野に入れ対応していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	1			引き続き現状維持で対応していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	3			基本情報での確認は出来るが、今後はスタッフ全体が共有できるように 食物アレルギーのファイルを作成していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	2			ファイリングは行っているが共有が少ないように感じる為、ヒヤリハット 会議を行いスタッフ間で更に情報共有の強化に努めていく。